

# かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ 所在地：南巨摩郡富士川町鯉沢771-2

TEL：0556-22-8154 FAX：0556-22-8144

HPでカラー版が御覧になれます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

## 平成26年度 峡南地区異校種連携セミナー NO. 1

峡南地域教育推進連絡協議会と峡南教育事務所が主催する平成26年度の峡南地区異校種連携セミナーが、11月11日(火)に身延町総合文化会館において開催されました。峡南地域教育推進連絡協議会関係者や地域の教職員、保護者、町関係者など70人が参加しました。今年度のテーマは、「保幼小中連携の在り方」「幼児・児童の自然体験活動の重要性」。このテーマに沿って、西島小学校教諭佐野由佳先生が「保育所・幼稚園から小学校へのスムーズな接続を目指して」と題し、昨年度研究推進指定校として成果を挙げた自校西島小学校・西嶋保育所・静川保育所・定林寺立正保育園の連携に関する実践発表を行いました。連携交流活動において、保幼小連携情報交換、保幼職員の1・2年小学校授業参観、小学校運動会への園児参加、来入児1日小学校入学等の実践発表がありました。この中で佐野先生は、保幼小の連携活動のポイントを、①園児が小学校児童と交流・生活することで、入学時の不安を軽減し、小学校生活への理解と期待を深める。②児童は、園児とふれあうことで自身の成長に気付き、年下に対する思いやりの気持ちを育む。③懇談会や参観を行い、指導の在り方や考え方について交流し、相互理解を深め幼児教育と小学校教育のつながりを滑らかにする。④毎年継続して交流を行うことができるよう、無理のない形で連携を行っていくことが大切である。とお話しになりました。



西島小学校 佐野由佳 先生

つづいて、山梨大学大学院教育学研究科教授の川村協平氏による「子どもをはぐくむ自然体験学習」と題し御講演をいただきました。この御講演については次号で御紹介いたします。

## 平成26年度 優良PTA文部科学大臣表彰受賞 久那土中学校PTA



PTA会長 日向耕平 様(中央)  
PTA副会長 若林哲司 様(←左)  
校長 丸茂哲雄 様(右→)

PTAの健全な育成と発展に資するため、毎年度優秀な実績を挙げている全国の各学校単位のPTA団体に対して、優良PTA文部科学大臣表彰が行われています。今年度、身延町立久那土中学校は、PTAの顕著な実績が認められ、平成26年11月19日(水)に優良PTA文部科学大臣表彰を受賞いたしました。久那土中学校PTAは、①設立して58年が過ぎ、伝統的に地域の子どもは地域で育てるという姿勢が強い。②トイレを美しくする会と連携し、トイレ清掃、親子で取り組む愛校作業、三沢川クリーン作戦、資源回収への協力等の環境美化活動を強力に推進している。特に、トイレを美しくする会との連携では、トイレ掃除を通して「子どもたちの心を磨く」取組を伝統的に実施している。久那土の親子の真剣な取組が評価されて、各企業の研修の一環となっている。県内でも1~2を競う伝統的な活動として、幅広く参加していただいている。③久那土中学校を多くの方々にPRする新聞作りや、地域と連携した福祉活動を実践している。④PTAの支援と町の協力により、生徒にタブレット型端末機と無線LAN環境を整備し、ICT教育を強力に推進している。生徒は1人一台タブレット端末機を活用して学習を進めているだけでなく、タブレット型端末機を家庭に持ち帰り、親子で活用能力の向上や適切な情報モラルの育成に親子で取り組んでいる。

以上の功績が認められ表彰されました。



# ☆☆連載特集『峡南地域の食材』No. 7



## 富士川町名産の一つ「ゆず」

### 1 富士川町穂積地区の「ゆず」

「ダイヤモンド富士」の名所として知られる、富士川町穂積地区で生産される「ゆず」の栽培面積は24ha、関東で一番の広さです。穂積地区の温暖な気候と豊富な日射量は「ゆず」の栽培に適しています。富士川町の「ゆず」の歴史は非常に古く、昔、小室山妙法寺の僧侶が精進料理の食材に使用するため「ゆず」の種を富士川町の山に蒔き広めたものと言われています。「ゆず」は料理や飲料として美味しく、ビタミンCの含有量は、アセロラ・グッパに続き第3位です。また、香りや美肌効果だけでなく、様々な効果があります。「ゆず」のスライスにハチミツや砂糖をまぜ、お湯をかけてできる「ゆず湯」が冬になるとよく飲まれています。

### 2 日出づる里活性化組合

平成17年当時は、もっと「ゆず」が沢山あり、「ゆずを何とか利用することができないか」「地域の人たちや県内外の人たちとの交流に生かすことができないか」など、様々な声が聞かれました。この課題を解決すべく、同年10月に『日出づる里活性化組合』（初代組合長 小池 等 様）を発足させ、平成19年より小室山妙法寺門前で『ほすみの郷加工直売所』を出店しました。平成21年8月から細川勝男様が2代目組合長となり現在の発展に至っています。『ほすみの郷加工直売所』の商品の一部を紹介いたします。



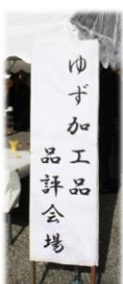
日出づる里活性化組合  
ほすみの郷加工直売所  
組合長 細川勝男 様



### 3 「ゆずの里まつり」と「ゆず加工品品評会」

穂積の特産である「ゆず」を通じて、地域住民の融和と絆を深めること、また、広く人々が集うことにより、心豊かな郷土「美しい穂積」を広めること、併せて地域の活性化と富士川町の発展に寄与することを目的とし、小室山妙法寺の境内で「ゆずの里まつり」が毎年開催されています。今年も、11月16日（日）に24回目の「ゆずの里まつり」（実行委員長 井上 光三 様）が開催され、多数の観光客が「ゆず」の香りと味覚を堪能していました。

「ゆずの里まつり」のイベントとして、「ゆず加工品品評会」を行っています。「ゆず」を使用した創作料理品の品評会で、優れた作品には実行委員会より賞が与えられます。今年も、出品者11名、出品作品22点でした。審査の結果、細川春奈さんが創作した“ペロペロ♪ゆずキャンディー”が山梨県峡南農務事務所賞を、深澤すみ子さんが創作した“柚子入むしパン”が富士川町長賞を受賞いたしました。



ペロペロ♪ゆずキャンディー



柚子入むしパン



## 市川高等学校 創立100周年記念式典・記念講演会



11月22日(土)、市川高等学校創立百周年記念式典・記念講演が行われました。市川高校は、大正3年に市川大門町立市川女子実業補習学校として誕生し、昭和25年に県立に移管され山梨県立市川高等学校となりました。県立移管までの36年間、市川大門町立として存続し、常に地域の学校として見守られてきました。創立の背景には、当時この地域は文化的素地が厚く、住民の文教に対する熱意が高かったこと、日本社会が産業発展段階を迎えていたことにより、将来の担い手である子どもたちにより優れた能力が求められたこと。また女性を取り巻く社会的背景の変化により、女子教育の重要性が叫ばれたことが挙げられます。県当局は勿論、地元市町村、同窓会、PTAをはじめ、多くの方々を支えられ発展し今日を迎えています。

現在まで様々な学科改編があり、昭和63年には桂高校と共に県内初の英語科が設置され、地域の英語教育の拠点として有為な人材を輩出してきました。野球部は「ミラクルいちかわ」と呼ばれ一世を風靡しました。平成18年には、「いちかわファミリー」の愛称をつくり学校通信「if」を創刊しました。全国大会常連の男子バスケットボール部・音楽部のすばらしい活躍もあります。記念式典では、小林二三同窓会長が、実行委員会会長あいさつとして「市川高校百周年記念式典が盛大に行われることに大変な喜びを感じています。150年、200年と続いていただきたい。」と述べられました。つづいて、橋田多喜夫校長は式辞で「先輩である本校の卒業生は、一万七千名を超え、県内外に様々な分野で活躍し社会に貢献しています。百年の歴史と諸先輩の活躍に思いを巡らせ今後の進路を思い描いてください。人々の繋がりが希薄化する社会の中で『他者を思いやり自分を大切にすること』という本校の校訓『敬愛自尊』は、正にこれからの時代に生きる皆さんにとって豊かな人間関係を築くための大きな指針となることは間違いありません」と述べられました。

### 市川小学校と町社会福祉協議会との共催事業

#### 「夢の実現に向けて」 ふじしまひろき 藤嶋大規選手 講演会



11月16日(日)、市川小学校体育館において、藤嶋大規選手の講演会が開かれました。この講演会は、市川小学校の授業公開日として、また、町社会福祉協議会の「福祉のこころ醸成事業」として、両者が共同で開催したものです。5・6学年の児童や保護者・地域住民の方々も体育館に集まり、藤嶋選手の話に静かに耳を傾けていました。藤嶋選手は、今年9月に開催された韓国仁川(インチョン)アジア大会で、カヌー・スプリント男子カヤックペアにおいて優勝し、金メダルを獲得しました。現在、富士河口湖町役場に

勤務しながら、近くの湖で日々厳しい練習を重ねていますが、「アジアの次は世界で金メダルを獲ると、次の2016年のリオオリンピックでの優勝を目指して今後もさらに頑張っていく」と、力強く抱負を語ってくれました。講演のテーマは、「夢の実現に向けて」。自らの経験をもとに、夢・希望をもつことや継続することの大切さについて、熱心に話されました。この講演の中で話された大事なメッセージをいくつか紹介します。①夢はエネルギーであり、自分のモチベーションを高めることにつながる。まず夢をもつことである。②夢を叶えるためには、小さな目標から始め、大きな目標、そして夢の実現へとつなげていく。③目標を達成するためには、挑戦する気持ちをもって努力を続けることである。④努力を続けるためには、成功した時の嬉しい気持ちを抱いてみるとよい。⑤失敗した時は、理由を考え反省してみると、必ず次(将来)に役立つ。挫折(壁・スランプ)は飛躍のチャンスであり、自分はまだ成長できると思うことが大事である。⑥何事も前向きに行動することが新たな可能性を生む。嫌い(苦手)なことを克服すると可能性は広がる。⑦練習でできないことが、本番でできる可能性は限りなく少ない。「練習は本番のように、本番は練習のように」である。⑧基本的なことは、挨拶・身の回りの整頓・感謝の気持ちであり、決して忘れてはいけない。講演会の最後に、児童から感想発表がありました。「夢をあきらめない大切さを学んだ」「夢の実現のために今日のお話を生かしていきたい」などと力強い言葉が聞かれました。20代半ばと年齢に近い方の成功体験だけでなく、小学生も「努力を重ねていけば、自分の可能性が広がり、夢が叶うかもしれない」そんな思いを抱くことができたのではないかと思います。実際に金メダルを手にしたたり、記念のサインをいただいたり、目を輝かせて藤嶋選手を囲む子どもたちの姿が印象的でした。

# 身延小中高一斉ボランティア活動！

身延高校（仙洞田一郎校長）では、11月5日（水）午後2時より「地域社会との交流を通じた体験プログラム」の一環として、身延中学校との合同による、通学路を中心とした学校周辺の地域一斉清掃活動に取り組みました。また、町内3小学校へ出向き、植花（パンジー）のための材料提供と手伝いも行いました。地域への貢献とボランティア精神の向上をはかり、実践的な態度を身に付けようと、身延中学校とは5年前から、身延小学校とは2年前から、下山小学校と大河内小学校とは昨年から連携して実施しています。

当日の清掃活動出発前の2時に、虹が……。身延町をきれいにしようとする澄んだ心の虹が、青い空に浮かび上がったかのような様子でした。

校長先生の挨拶の後、身延高校の一瀬生徒会長と身延中学校の若林生徒会長とが挨拶にたちました。「普段小中高校生が同じ目的をもち、一緒に活動をすることはありません。ボランティアの意義に沿って、有意義な時間にしましょう。また、自分自身の貴重な経験として、今後に役立ててください。」との力強い言葉がありました。児童・生徒551名と教職員とによる大所帯のボランティア活動でした。身延高校2年の上田輝人君は「小中学生はもちろんのこと、普段話すことのない同じ高校生とも会話をしながら清掃活動ができたし、きれいにもなったので、嬉しかった」、身延中2年の松木音々さんは「ゴミが少なかったけど、普段からみんなが町をきれいにしている証拠だと思いました。高校生は部活のことなど話しかけてくれたり、ゴミをもってくれたりして優しかったです」と話してくれました。生徒達が縦割りの関係の中で、素敵な時を過ごせたようです。身延高校の環境委員は、最後まで残って、ゴミの分別をしていました。長時間にわたり、お疲れ様でした。



まずは自己紹介から



身延高生が、下山・大河内・身延小に出向いて、一緒に植花作業



中高生とで通学路清掃



仕上げは身延高生が

# 思春期体験学習 11月で全12中学校と増穂商業高校終了！

この事業は、峡南地域すべての中学生を対象に、学校・町・保健福祉事務所・教育事務所の4者が協力して実施しています。各校の教育課程にも位置づけられ、今年で16年目を迎える思春期体験学習も、11月の三珠中、南部中、身延中による体験学習を最後に、全12校の思春期体験学習が終了しました。

この体験学習を進めるに当たり、各町や県保健福祉事務所の保健師さんや助産師さんたちが綿密な打ち合わせを行い、指導方法や準備品の確認、母親との連絡調整、講話や体験学習の指導など、精力的に進めてくださいました。また、多くのお母さん方が、大事な我が子を抱えながら、中学生・高校生の体験学習のためにと、会場まで足を運んでくださいました。多くの関係者の皆様の誠意により、この体験学習が実施できたことを、心から感謝申し上げます。意義の大きい事業なので、来年度も引き続き教育課程に位置づけ、取り組みを継続して欲しいと思います。

増穂商業高校（若林毅文校長）でも、富士川町子育て支援課との連携により、4年目の「子育て体験学習」が終了しました。高校3年生は、出産育児がより身近なものとなります。生徒達の真剣なまなざしが印象的でした。



藏沢中 妊婦さんのお腹にタッチ



三珠中 男子生徒の妊婦体験



市川南中 人形を使ってプレ実習



市川中 保健師さんによる事前学習



早川中 担任も妊婦体験



六郷中 母子との記念撮影



中富中 赤ちゃんの着替え体験



南部中 愛育会の方々も参加してくれました



身延中 ベビーマッサージ



増穂商業高校 赤ちゃん目線で